

令和 6 年 11 月
ジャパンハイドロ株式会社

「ハイドロびんご」にて採用した 35MPa の Type3 型水素トレーラの運用に関して

まずは、米国製シリンダとイタリア製電磁弁の設計確認試験合格証取得に長い時間を要しました。輸入代理店となった事業者は以前にも同一製品で組試験を行った上で合格証取得の経験があり、我々向けも搭載向けて燃程時間を要さない考えでしたが、目論見が外れ、納期遅れを認めるしかありませんでした。

今後、再度海外製シリンダ（メーカー）を採用するにしても、水素バンカリング行える地域は当面限定的と考えられる中、陸上の運送検討は不可避である為、同一のシリンダを陸上用途と海上用途の両用として使用することから、国内規定に従って事前評価審査を都度受けることとなります。

当時、国内認証機関は国内から多数に申請を受けた為にご多忙とのことで、審査に長期間を要し、最終的に想定以上の負担となってしまいました。

海外製品でも ISO 規格取得タンクは海上のみでも国内での仕様許可と、国内認証機関には今後も用途にかかわらず既存規格での検査の速やかな実施を期待しています。

充填所の選定についても、我々が直接依頼しても受けていただくのが難しい状況であり、産業ガス商社を介して申し入れざるを得ないのが実情です。弊社の実際の運用では、産業ガス商社に製造・引渡しの初回充填から 1 年間は同社のみに充填を依頼するとの契約を結び、充填所を仲介いただきました（契約は 2024 年現在まで自動延長）。

国内で同様の 45MPa 型容器を使用して輸送を行っている石油元売り会社に充填していただくという選択肢も考えましたが、残念ながらご協力いただけっておりません。理由としては「この仕様であれば充填しても構わない」というガイドラインが明確では無く、持ち込み容器への充填を躊躇されてしまう、という事情があります。

前述の契約に従い商社に手配頂いている、福岡県の水素の試験センターにて行われる充填作業も、建付けとしては燃料としての水素充填では無く、「安全に水素を充填する事が可能かの実証試験」となっております。

トレーラ自体の車検を受ける際、検査作業に二時間以上を要する場合は第一種貯蔵所の認可を要する（一所に二時間以上高圧ガスを保管する場合は貯蔵所となるとの指導）のために、一般的な車検サービスを受ける際に、注意を要しています。

（以上）